

優秀賞 大切な時間

生駒市立上中学校 1年 渡海 夏希

「これ、めっちゃおいしいなあ。」

「本当だ。」

「この野菜は奈良でとれた物なんだよ。」

私は、こんな風に家族といっしょに過ごせる食事の時間が、一番安心できる、かけがえのない大切な時間だと思っている。そして、その時間が私の世界で一番大好きな時間だ。

小学生の頃と比べて、部活や勉強で忙しくなった私は、家族と一緒に過ごす時間があまりとれなくなっていた。その中で、唯一家族みんなでいられる時間。私と家族をつないでくれたもの。それが家族全員でとる食事だった。

小さい頃から、食事をするときは、特別なとき以外家族全員でとるのがルールだった。お父さんが仕事で特別おそい日以外は、帰ってくるのを待ってみんなで食べたし、私が友達と出かけておそくなるときも、私を待っていてくれた。朝と夜は、必ずみんなでお母さんの料理か、レストランの料理を食べる。

「いただきます。」で始まって、

「ごちそうさま。」で終わる。

ほんの30分間には、いつも特別なものがつまっていた。よく、友達が

「昨日、ご飯食べているときテレビで・・・。」

などと話しているけど、私の家には、テレビなんて必要ないなと少し喜しくなった。食事の時間は、食卓が明るくなって本当に花がさいたようになる。みんなで、料理の感想を言い合ったり、たまにお母さんが料理の具材について色々教えてくれることもあった。でも、何より私が一番好きなのが、私や妹が学校であったことについて話すときだ。

前に、友達とけんかしてしまったことがあった。そのことを、思い切って家族に話してみたら。

「また、仲良くしたいんだったら、自分から勇気を出して謝ってみたら？きっと相手も、またしゃべりたいと思っているよ。」と言ってくれた。

あたり前のことだけど、家族が言ってくれた意見だと

「がんばろう。」という気持ちになれた。

この日から、私は食事のときに色々なことを話すようになった。楽しかったこと。おもしろかったこと。悲しかったこと。くやしかったこと。どんなことを話しても、家族はちゃんと聞いてくれる。私は、スッキリして次の日を向かえることができた。家族との食事の時間が私にとって、なくてはならない時間になっちゃったのだ。

だから私は、家族が全員一緒にとる食事の時間が、とても大好きだ。私の一番安心できて、楽しくて、明日にちゃんと立ち向かえる、そして、家族とつながっていられる大切な時間を、これからもずっと続けていきたい。続いてほしい。それから、他の家族も、みんなで見られる、大好きになれるような大切な時間をつくって、過ごしてほしいと思った。